２６．６．１６
杉並区広報課

「キツリフネソウ」が見頃です！

成田東１丁目の山口 和久（やまぐち かずひさ）さん（81 歳）宅で、「キツリフネソウ」の花が今年も見頃となり、近所の人々の目を楽しませています。また、今年は偶然の産物が話題に加わりました。

山口さん夫妻が、自宅の庭で約 25 年前から育てている「キツリフネソウ」が、今年も見頃となりました。この花は、高い山岳地の湿地の木陰や水辺などに咲く花で、名前のとおり、帆をかけた小さな船に見える黄色の花を細い花柄からつるしているように見える、珍しい野草です。

奥様の恵子さん（75 歳）が、約 25 年前に知り合いの方から一粒の種を譲り受け、大切に育てたところ、黄色の可憐な花が咲くようになりました。今年も、１ミリほどの種を３月の初めに蒔いて、双葉に育ったものを玄関アプローチの５メートルほどに定植しました。春先に大雪などがあり、例年より生育は遅れましたが、１週間ほど前から黄色い可憐な花を見せ始め、今が見頃となりました。花は蕾をたくさん付けているので、今月いっぱいは楽しめるそうです。

また、今年は山口さん夫妻に、新たな楽しみができました。それは、キツリフネソウが育てられている同じ花壇で起きたイリュージョンです。花壇の一角に、３年ほど前に投げ捨てていたサザエの貝殻が、５月中旬から伸びてきたミュウガの芽に空中に持ち上げられています。

山口さんは、「今年は、可憐なキツリフネソウの花に加え、サザエの話で盛り上がっています。花を育てるのは骨が折れますが、毎年楽しみにしてくれる方のためにも、これからも大事に育てていきたいと思っています。」と笑顔で話していました。

［報道機関問い合わせ先］
区長室広報課　　TEL ３３１２－２１１１